



全国 ICT 教育首長サミット 日本 ICT 教育アワード

東京都立産業貿易センター 浜松町館
令和6年1月19日

全国 I C T 教育首長協議会

プログラム

教育DX推進自治体表彰「受賞自治体の発表（10：00～）

- ・ 尼崎市教育委員会 ・ 久喜市教育委員会 ・ 西海市教育委員会 ・ 四国中央市教育委員会
- ・ 土岐市教育委員会 ・ 奈良市教育委員会 ・ 日進市教育委員会 ・ 能美市教育委員会
- ・ 水戸市教育委員会 他

NEXT GIGA 対応先進ICT機器展示ブース見学（11：30～）

開会行事（13：00～）

- 会長挨拶（多久市長 横尾俊彦）
- 来賓挨拶（文部科学省、総務省、経済産業省）

第6回 日本ICT教育アワード表彰（13：15～）

審査報告（審査委員長 大久保 昇 一般財団法人日本視聴覚教育協会会長）

- 表彰（文部科学大臣賞） 茨城県水戸市
（総務大臣賞） 宮城県岩沼市
（経済産業大臣賞） 埼玉県久喜市
（協議会会長賞） 富山県朝日町・愛知県春日井市・大阪府枚方市・
愛媛県四国中央市
（日本視聴覚教育協会会長賞） 高知県須崎市
（日本ICT教育アワード審査委員会特別賞） 埼玉県鴻巣市
（協議会優秀賞） 茨城県つくば市・東京都八丈町・東京都三宅村・
山梨県甲府市・岐阜県岐阜市・岐阜県恵那市・
岐阜県土岐市・奈良県奈良市

NEXT GIGA 対応先進ICT機器展示ブース見学（13：45～）

講演「GIGA School 構想の動向」（14：15～）

- 文部科学省初等中等教育局修学支援・教材課長
- 学校デジタル化プロジェクトチームリーダー 武藤久慶氏

全国ICT教育首長サミット（15：15～）

「日本ICT教育アワード受賞自治体によるシンポジウム」

- 登壇自治体 ・ 茨城県水戸市・宮城県岩沼市・埼玉県久喜市
・ 富山県朝日町・愛知県春日井市・大阪府枚方市・愛媛県四国中央市
・ 高知県須崎市・埼玉県鴻巣市・茨城県つくば市

情報交換会（16：30～17：30）

- 省庁、自治体、学校による情報交換



第6回 日本 ICT 教育アワード

受賞自治体

文部科学大臣賞

茨城県水戸市

教育課題の解決に資する教育データの利活用と教育ダッシュボードの構築

■基本情報

首長	高橋 靖
教育長	志田 晴美
人口	269,196 人
公立学校数	小学校 32 校、中学校 15 校、義務教育学校 1 校
児童生徒数	小学校 12,795 人、中学校 6,190 人
ICT 導入状況等	児童生徒用端末 OS / Chrome OS ネットワーク / 校内光ファイバー、普通教室、特別支援教室、特別教室に接続可、ローカブレイクアウト導入 大型提示装置導入状況 / 普通教室のみ設置 大型提示装置タイプ / モニター型

■ICT教育の特色

児童生徒 1 人 1 台端末の活用を開始して 3 年目を迎え、本市においても日常的な活用が定着してきている。端末活用が進み、児童生徒の多様な教育データが蓄積されるようになったことから、本市ではそれらのデータを活用して、本市の教育課題である「学力向上」と「不登校の未然防止・いじめの早期発見」につなげていくこととした。

児童生徒の教育データのうち、学習活動から得られるデータを「スタディ・ログ」とし、「個に応じた学習指導」と「教員の授業改善」を図った。また学校生活から得られるデータを「ライフ・ログ」として「心の状態の把握」に努めた。いずれも児童生徒の実態把握のサイクルを短くし、できる限り早い段階でフォローアップや対応を目指す取組とした。

また、教育データを利活用するに当たり、教員が必要な教育データを容易に集約でき、分析・確認しやすいシステムが必要であったことから、本市では、Google for Education と連携し、教育ダッシュボードを構築し、運用を開始した。

総務大臣賞

宮城県岩沼市

「人」台端末の活用と働き方改革の推進

■基本情報

首長	佐藤 淳一
教育長	及川 浩市
人口	43,450 人
公立学校数	小学校 4 校、中学校 4 校
児童生徒数	小学校 2,331 人、中学校 1,250 人
ICT 導入状況等	児童生徒用端末 OS / iPadOS、iOS ネットワーク／校内光ファイバー、普通教室、特別支援教室、特別教室に接続可 大型提示装置導入状況／すべての普通教室、特別支援教室、特別教室に設置 大型提示装置タイプ／プロジェクター型、モニター型

■ICT教育の特色

校務支援システム＋日常業務のDX＝校務のDX

公簿を完全に電子化し、改革の第一歩目として取り組んだ。

- ・2期制、通信表の所見廃止、宿題の在り方の見直し
- ・養護教諭部会から公簿電子化に対する理解と協力を得た。
- ・業務ルーティンをアップデートして、日々の業務を効率化した（例）出席簿は、毎日放課後に確定

日常業務のDXは汎用的なツールで

コンセプト：使うことで味わうICTのメリットスマホを使いこなす、タブレットのよさ、クラウドの恩恵

- ・チャットでラクラク情報共有・伝達
- ・スプレッドシートで同時に文書回覧
- ・校内ポータルサイトで情報リアルタイム共有！

学校と市教委の連携

- ・ICT化の波に乗り、教師「人」台端末を早い段階から提供！
- ・市教委と学校の距離が近くなり、メンテナンスやリクエストにスピーディーに対応！
- ・現職教員から市教委への割愛でICT支援員を4名を配置！
- ・GoogleChatグループの活用！

経済産業大臣賞

埼玉県久喜市

誰一人取り残さない教育の実現へ NEXT GIGA を見据えた 「久喜市版未来の教室」実現に向けて

■基本情報

首長	梅田 修一
教育長	柿沼 光夫
人口	151,206 人
公立学校数	小学校 21 校、中学校 10 校
児童生徒数	小学校 6,698 人、中学校 3,480 人
ICT 導入状況等	児童生徒用端末 OS / Chrome OS ネットワーク / 普通教室、特別支援教室、特別教室に接続可、ローカルブレイクアウト導入 大型提示装置導入状況 / 普通教室のみ設置 大型提示装置タイプ / タッチパネル型、 モニター型

■ICT教育の特色

ICT 教育の中核となるコンセプトが、「NEXT GIGA を見据えた『久喜市版未来の教室』実現に向けた取組」である。「次代の世界で活躍する『未来を拓く力』を育む久喜市の教育実現と、子どもたちの Well-being に溢れた未来を築くための取組を推進している。

令和5年度は、久喜市版未来の教室 4 + 1 のコンセプトに加え、NEXT GIGA に向けたクラウド環境をフル活用した取組加速の為、中核となる下記の取組を、首長、教育長の強力なリーダーシップの元、具体的に進めており、学校や家庭、地域、行政が総力を結集し、地元企業等とも連携・協働し、「誰一人取り残さない教育」と活力ある地域創生を目指した人材育成の取組を進めている。

- 1、文科省「リーディング DX スクール事業」の取組推進
- 2、不登校支援「久喜市共同オンライン分教室」の取組拡充
- 3、いじめアンケートダッシュボード化による迅速な情報共有の仕組みと学びの自己調整に向けた「学びログ」の蓄積
- 4、STEAM 教育の推進
- 5、校務の効率化と働き方改革

全国 ICT 教育首長協議会会長賞

富山県朝日町

子供たちの探究心をグローバルな視点で育み、朝日町から未来の創造につなげる DX 教育

■ ICT教育の特色

朝日町では、令和4年度から「デジタル田園都市国家構想」を活用した地域創成の様々な取組を行っている。一方で学校教育においてもこれまで様々な先進的な取組を進めてきた。令和2年8月のコロナ禍、県内最速でGIGAスクール構想（端末と校内高速ネットワーク）を整備し、全国に先駆け双方向型オンライン授業を実施するとともにデジタル教科書を導入した。こうした取組から文部科学省の学習者デジタル教科書実証研究校（全国5校）に朝日町の小学校2校が指定され検証チームによる公開授業が開催された。

令和3年1月より端末持ち帰りを県内最初に実施するとともにコンピュータ室をアクティブラーニング室に全て改装した。令和4年度には、端末にAI学習ドリルを導入し「個別最適な学び」に対応した学習を進め、併せて民間企業（株）博報堂と連携し小中学校で教育DXを活用した未来創造DXプロジェクト（起業家教育）をスタートし、地域課題を協働的に探究する公開授業等（デジタル庁参事官視察）も実施している。また、今年度より文部科学省リーディングDXスクール指定校に朝日町の小中学校2校が富山県代表で選ばれ、教育DX実践や教員研修ゼミ等を実施している。

全国 ICT 教育首長協議会会長賞

愛知県春日井市

1人1台端末とクラウド環境の日常的な活用による主体的な学びの実現と校務・研修DXの推進

■ ICT教育の特色

春日井市では、25年前から教育の情報化に取り組んできました。校務改善にICTを活用することで、教職員がその便利さを体験することからスタートしました。12年前からは、分かりやすい授業の実現をめざし、学習規律の徹底と実物投影機などのICTの日常的な有効活用に取り組みました。その成果を「かすかいスタンダード」として市内全校に水平展開し、いつでも気軽にICTが使える環境を整え、有効な活用の仕方を共有することで日常的な活用が広がりました。

GIGAスクール構想による1人1台端末とクラウドの導入でも、従来の取り組みと同様に、まずは校務で使い、その便利さを実感し、活用のイメージを広げていくことから始めました。しかし、クラウド活用という従来の教育現場では未知のものを授業に取り入れることに大きな戸惑いや不安がありました。そこで、各種研修でも授業と同じクラウド環境を活用し、新たな環境を体験することを進めました。簡単な実践の中にも新しい発見や感動を見つけ、それを共有していくことで、活用が広がり、授業・校務・研修のDXが進んでいることを実感しています。

全国 ICT 教育首長協議会会長賞

大阪府枚方市

企業・大学と共に「夢や可能性」の機会を創出！教育で盛り上げる
枚方の未来！

■ ICT教育の特色

枚方市教育委員会では、「GIGA フェス 2022～ミライのガッコウ～in ひらかた万博」を開催しました。リアル会場やメタバース会場で行われる企画を通して、子どもたちが未来社会への夢や可能性を感じることができました。デジタル防災学習等の企業・大学連携ブース、GIGA 端末でメタバース空間への参加、マインクラフトで「30年後の枚方市」を創造する4ヶ月間の探究プロジェクト等の企画を実施し、メタバース空間へのアクセス回数は延べ1万回以上、リアル会場への参加は450名以上ありました。

今年度はマインクラフトの探究プロジェクトを発展させ、中学生が総合的な学習の時間「街づくり探究」での活用や、適応指導教室に通う児童生徒が自分の考えを表現するツールとして活用しています。また、株式会社コナミデジタルエンタテインメントが開発した桃太郎電鉄教育版を市内小中学校で自由に利用できるように申請し、社会科や国語科等の授業での活用が広がっています。さらに、希望する教職員で結成する、「桃太郎電鉄教育版実践研究会」、通称「桃研」を結成し、月に1度オンラインで「桃太郎電鉄教育版」の効果的な課題設定や活用について研究を続けています。

全国 ICT 教育首長協議会会長賞

愛媛県四国中央市

つながる・ひろがる、新しい学び 未来への挑戦！全教員が学びの本
質を探究し続ける GIGA しこちゅ～PJ

■ ICT教育の特色

コロナ禍での市長の「学びを止めるな！」の大本命の下、行政と学校が二人三脚で GIGA スクール環境を構築し、充実した研修により教職員スキルの向上を図る等バランスの取れた ICT 教育の基盤を早期に完成させオンライン授業等により難局を乗り越えてきた。「あったかな四国中央市の教育」の基本理念の具現化に向け、次代の GIGA へ向けた取組を全身全霊で推進している。全ての子どもたちがウェルビーイングを実感できるよう子どもたち同士の「対話」を目指した授業力の向上を行う授業改革、デジタル社会の善き使い手の育成、教育 DX による働き方改革を三本の矢として、大学や民間企業と連携した産官学イノベーションにより学校に新しい風を吹かせ、子どもたちが自立できる取組を推進。

更に、全国最多となる民間資格取得者数に加え、全教職員の互酬性規範の醸成による学び合いの風土を活かしモチベーションを高め、学年を超えた学びの創出や不登校児童生徒への支援を含めた多様化する学びに ICT を活用し新たな学びを探求している。変化の激しい未来を生きる力の育成のため、全国の機関と連携し子どもたちの活躍の場を設け、当市でしかできない体験を創出。

一般財団法人日本視聴覚教育協会会長賞

高知県須崎市

ICTと「限界」を超える! 「すさき E-CLIF 教育」の取り組み

■ ICT教育の特色

本市においては、GIGA スクール構想開始以来、様々な「限界」を超えるべく取組を進めてきた。

第一に、場所の「限界」を超える学びとして、オンライン会議システムを用いた学校を超えた協働学習や海外の学校との交流を実施している。

第二に、年齢の「限界」を超えようと、幼少期からの学習の積み重ねによる思考力や自尊感情の確実な定着を目指し、保育園・小学校低学年からアンプラグド教材を用いたプログラミング教育等を実施している。

中でも特筆すべきは、学校教育の「限界」や地方の「限界」を超えようと、NPO と連携して運営している「てくテックすさき」の取組である。本施設は、家庭、学校に続く子どもの第三の居場所であり、テクノロジー教育の推進に取り組んでいる。全ての子どもが無料で3D モデリングやデジタルイラスト、映像制作等の創作活動やテクノロジー体験ができるため、学校教育の中で自己実現が十分果たせていない子どもの知的欲求を満ちし、かつキャリア形成の一助となる。

本市ではこういった教育を「すさき E-CLIF 教育」と名付け、今後も未来を力強く生きるために必要な「生きる力」を持った子どもを育てるべく取組を推進している。

日本ICT教育アワード審査委員会特別賞

埼玉県鴻巣市

全国に先駆け最先端技術を活用したフルクラウド環境を実現

■ ICT教育の特色

・学術情報ネットワーク SINET に直結するクラウド (Microsoft Azure) を活用した強固なセキュリティ基盤の実現

※全国初

・電子ドリル教材や教材コンテンツを充実させ、効率的かつ公正に個別最適化された学びの実現

・全教職員にセキュリティの高いテレワーク環境を整備し、ワークライフバランス向上。それに合わせて、校務を完全電子化し、教職員の負担軽減 ※県内初

「先端技術の活用による教育 ICT 環境の刷新」を行い、全国に先駆けて、個々の事情に応じた多様で柔軟な働き方・学び方を実現している。最先端の技術を効率的に活用する体制を確立し、学校教育の現場において ICT の先端技術を活用した、新たな学習活動の充実のための取組を行っている。そして、最先端の ICT 教育と、これまでの教育実践とのベストミックスを図ることで、新しい時代で活躍するために必要な資質・能力を身に付けた「のすっ子」の育成を目指している。

全国 ICT 教育首長協議会優秀賞

茨城県つくば市

つくばから創出! Society5.0 時代に世界のリーダーとして活躍できる人材を!!

全国 ICT 教育首長協議会優秀賞

東京都八丈町・東京都三宅村

生徒一人ひとりがオリジナル Web サイトを通じ島内外へ島の魅力発信を行う「デジタル×地域課題解決」学習

全国 ICT 教育首長協議会優秀賞

山梨県甲府市

全国でつながれ! ICTを活用して「第1回全国ジュニアICTリーダーサミット」開催

全国 ICT 教育首長協議会優秀賞

岐阜県岐阜市

岐阜市について深く理解しシビックプライドを醸成する探究学習「ぎふ、MIRAI's」

全国 ICT 教育首長協議会優秀賞

岐阜県恵那市

学び続ける児童生徒を支える学校内外の包括的な ICT 教育の推進

全国 ICT 教育首長協議会優秀賞

岐阜県土岐市

Society5.0 時代を生きる子どもたちのために、市全体が足並みを揃えて情報化を推進!

全国 ICT 教育首長協議会優秀賞

奈良県奈良市

ゼロトラストアーキテクチャを用いた、新しい校務環境と教育データを活用した誰一人取り残されない教育

■アワード基本情報の回答より（自治体数 84 自治体）

(%)

GIGA スクール端末導入状況（1つ選択）		
	2020年度以降に小中学校1人1台端末導入済み	89.3
	2019年度以前に小中学校1人1台端末導入済み	9.5
	その他（一部導入できていない学年がある）	1.2
児童生徒用端末OS（複数回答可）		
	windows	44.0
	Chrome OS	44.0
	ipadOS、iOS	26.2
校内ネットワーク（複数回答可）		
	普通教室、特別支援教室、特別教室に接続可	75.0
	校内光ファイバー	42.9
	ローカルブレイクアウト導入	32.1
	LTE	8.3
	普通教室のみ接続可	1.2
	アクセスポイント未整備のため、持ち運びアクセスポイント導入	0.0
大型提示装置導入状況（1つ選択）		
	すべての普通教室、特別支援教室、特別教室に設置	63.1
	普通教室のみ設置	33.3
	学校数台程度設置	2.4
	その他（学年半分程度設置）	1.2
大型提示装置の形状（複数回答可）		
	モニター型	63.1
	タッチパネル型	46.4
	プロジェクター型	33.3
ICT教育整備計画・教育計画の有無（1つ選択）		
	ある	69.0
	ない	16.7
	作成中	13.1
ICT教育の特色（複数回答可）		
	校務支援ソフト	53.6
	全教室大型提示装置	47.6
	教員研修などの取組	46.4
	個別最適化学習	44.0
	高速ネットワーク整備	41.7
	クラウド活用	39.3
	首長のリーダーシップ	36.9
	アクティブ・ラーニング、協働学習	35.7
	プログラミング教育	35.7
	遠隔教育	32.1
	学習者用デジタル教科書	31.0
	学力向上	29.8
	教育水準の向上	27.4
	企業連携・地域連携	23.8
	情報セキュリティ対策	23.8
	GIGAスクール構想以前より1人1台端末整備	17.9
	Society5.0時代に必要な21世紀型スキルの育成	17.9
	魅力あるまちづくりの実現	17.9
	問題解決学習、SDGsでのICT活用	15.5
	STEAM教育	13.1
	LTE	10.7
	創造的独創的な教育DX	10.7
	その他	3.6
首長の役割（複数回答可）		
	積極的にリーダーシップを発揮した	28.6
	予算獲得に貢献した	22.6
	住民に対して積極的にICT教育の意義を説明した	14.3
	周辺の自治体との連携を図った	6.0